

令和3年度茅ヶ崎市環境審議会 第2回温暖化対策分科会（WEB会議）会議要旨

日 時： 令和3年8月5日（木）14時から15時50分まで

場 所： 茅ヶ崎市役所本庁舎4階 会議室2

出席委員： （WEB会議により出席）我妻委員、高祖委員、塩原委員、内藤委員、山田委員

欠席委員： 永島委員

出席職員： 【環境政策課】森井課長、小野寺課長補佐、安田主任、佐藤主事

1 茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）進捗状況報告書（令和3年度版）の評価について

- ・資料1「茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）進捗状況報告書（令和3年度版）事前評価シート（温暖化対策分科会）」を参考に、温暖化対策分科会が所掌する重点施策のうち、重点施策32～37の評価を行った。

→主な意見等は次のとおり。（○＝委員、■＝市）

【重点施策32 庁内の環境意識の向上

重点課題33 庁内における人材育成】

分科会評価：B（市評価：B）

○一昨年度の外部監査で「フロン排出抑制法」における簡易点検の様式及び産業廃棄物の委託処理手続きについての一部不備について指摘を受けた組織について、昨年度指摘を受けた組織と同じか。

→■別の組織である。外部監査の対象は、基本的に連続で対象とならないよう施設を選定している。

→○別の組織ということであれば、指摘事項が庁内で共有されていないのではないか。

→■指摘事項については、毎年度実施している研修で注意をよびかけ、庁内通知でもその旨を知らせている。現在は、集合型での研修が難しい状況であるが、書面での研修や施設に出向いた研修を行い、法令遵守の徹底を図っている。

→○指摘事項は、改善されているのか。

→■指摘事項については、すべて改善している。

→○フロン類は二酸化炭素よりも地球温暖化係数が高いので、フロン排出抑制法の点検は漏れがないよう注意してほしい。

○簡易点検の様式での一部不備というのは、市が用意する点検様式そのものが不備なのか、各施設が実施した点検を記入する際に記入漏れがあったものなのか。

→■結果を記入する際に記入漏れが生じている。

○研修の開催自体が困難な中で必要なものを選んで研修を実施している点は評価できる。

○庁内意識が向上し、施設の省エネが進み、行政の温室効果ガスが削減されている点は評価できる。また、外部監査では、重点的に温暖化対策の視点で監査を行い、適切かつ効果的との評価をもらっている点は評価できる。

○外部監査の指摘以外の提案部分で、今後取り組んでほしい点が述べられているが、それに対しての対応があるとより良いのではないか。

○フロン排出抑制法の簡易点検では様式への記入漏れはあったが、重大な指摘事項ではないことからB評価で良いのではないか。

○外部監査では、毎年同じような指摘が続いているため、検査体制を強化することが必要

である。

- 外部監査で同じ指摘を受けることは重大な問題である。簡易点検の様式への記入漏れがある点は心配であり、概ね順調に進んでいるとはいえないと思う。
- 事前評価では、4人の委員がB評価、1人の委員がD評価と意見が分かれていたが、全体の議論を踏まえて、全委員が同意したうえで分科会評価はBとする。

#### 【重点施策34 意識啓発・人勢育成】

分科会評価：C（市評価：C）

- コロナ禍で非常事態宣言等が発出されていたためイベントなどの情報発信は困難だったと思う。そのような状況下でも動画配信や啓発動画を作成したという点は、令和2年度に限り評価できる。
- スクールエコアクションの動画上映、景観みどり課によるフェイスブックの随時更新や市のホームページの積極的な情報発信、みどりのカーテンの写真投稿などWEB活用がされており、評価できる。
- 啓発や人材育成に関して、ちがさきエコネットの情報発信については、効果的だったのではないか。
- コロナ禍でイベント開催が難しい中、ちがさきエコネットを活用した啓発活動は非常に効果的だと感じる。ちがさきエコネットの中で動画の紹介やワークシートの作成など学校の子どもの勉強にも使えるように取り組んでいる。
- インターネットを活用し、市民全体に広がるような取り組みを行うのが課題である。
- 今後、中止とならないような企画を検討することが必要である。
- コロナ禍でイベント等の中止などやむを得ない面もあるが、この状況を打破するにはどうしたらよいかもっと考えてほしい。そのことが新たな企画にもつながると思う。
- 事前評価では、2人の委員がB評価、3人の委員がC評価、1人の委員がD評価と意見が分かれたが、全体の議論を踏まえて、全委員が同意したうえで分科会評価はCとする。

#### 【重点施策35 現在活動している市民活動団体、事業者による環境保全の取り組みの支援】

分科会評価：C（市評価：C）

- 予算・決算が0円であるが何故か。
- 予算額0円というのは、当初予算は計上していたが、コロナの影響でイベントができなくなったものについて、減額補正しているため予算額としては0円となっている。また、「省エネルギー及び地球温暖化に対する普及啓発事業」については、環境バスツアーなど実施していないのにも関わらず決算額が計上されているが、これは報告書の作りが、総合計画に基づく実施計画がどこに位置づけられるかを標記することとされており、実施計画名に基づいている事業が記載され、予算・決算についても記載されていることによる。
- 議会の決定により、予算を修正したことは記載があった方がよい。
- 今後は記載を考えたい。
- ちがさきエコネットのエコ事業者認定数の増加に向け、バナー広告欄を設ける等の新たな広報活動の取り組みは評価できる。
- グリーンリカバリーの方策が必要であることから、事業者への補助金等の支援など検討したほうがよい。
- 新たなエコ事業者の登録数増加について苦労しているのはよく分かるが、カーボンニュートラルの実現に向けて、事業者も含めた協力体制の構築が課題である。
- 当初、C評価とした委員が5名、D評価とした委員が1名であったが、以上の意見を踏まえ分科会評価はCとする。

【重点施策36 地域と連携した環境教育

重点施策37 学校における取り組みの支援】

分科会評価：B（市評価：B）

- スクールエコアクションの取組は小和田小学校の事例を他の小中学校でも展開して実施したほうが良いのではないかと。
- スクールエコアクションの取組は、各学校で様々な地域資源を活用し実施している。また、その取組は環境政策課に報告をいただき、まとめたものを各学校へ情報提供している。スクールエコアクション報告会とは、これまで中学校を対象とし、環境フェアで学校での取組を発表していた。現在は、毎年2校ずつ小学校で実施している。
- このような取り組みは非常によい内容だと思うので今後も継続してほしい。
- 職員の出前講座は、コロナ禍であってもオンラインで対応できるよう工夫して実施してほしい。
- 地域や学校との連携について、概ね順調であると評価できる。
- コロナ禍で学校環境や学校教育がこれまでと大きく変わっているため、状況に応じて対応してほしい。
- 事前の評価を5人の委員がB評価としており、議論の全体の傾向として、分科会評価はBとする。

【評価をまとめる視点についての分科会長のコメント】

- 次につなげる（計画や年度）という視点でコメントを作成する。
- コロナ禍だからできないというのではなく、温暖化対策はこのような社会環境の変化が起こりえる問題である。そのため、この状況に積極的に対応することを課題とする。
- 外部監査や市民・事業者アンケート評価など、良いところや課題について、第三者評価を踏まえて、分科会での評価案を作成する。

2 その他

→事務局より、12月に温暖化対策実行計画の評価作業を予定していること、10月に第2回茅ヶ崎市環境審議会の全体会を予定していることを案内した。

■資料

資料 茅ヶ崎市環境審議会 温暖化対策分科会 事前評価シート

参考 茅ヶ崎市環境審議会 温暖化対策分科会 事前質問に対する回答

参考 「茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）進捗状況報告書（令和2年度版）における重点施策の進捗状況に対する環境審議会評価一覧（温暖化対策分科会関係部分の抜粋）」